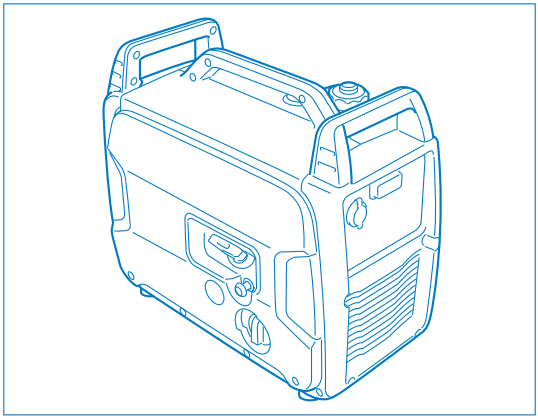
Earth POWER

携帯発電機
EF1800iS
取扱説明書



⚠ ご使用前に、かならず取扱説明書・本体ラベルをお読みになり、内容を理解してからお使いください。

KN55175AA

はじめに

アースパワー発電機をお買いあげいただき、誠にありがとうございます。
本書には、商品の安全性に関する情報と商品の正しい取り扱い方法および簡単な点検・調整について説明してあります。
万一、取り扱いを誤まると重大な事故や故障の原因となります。
あなた自身の安全と環境や住民の方との調和のために、また商品の性能を充分に発揮させるために、商品の取り扱いを充分ご存じの方も、この商品独自の装備・取り扱いがありますので、ご使用前に必ず本書を最後までお読みください。
なお、ご使用時には本書を携帯し、安全に商品をご使用くださいますようお願い申し上げます。
ご不明な点や不具合なところがありましたら、お早めにお買いあげの販売店にご相談またはお申しつけください。販売店では、お客様のよきアドバイザーとしてご来店をお待ち申しあげております。

要　点

- 仕様変更などにより、本書のイラストや内容が一部実機と異なる場合がありますのでご了承ください。
- 保証書はよくお読みいただき、裏面のお買いあげ日、販売店の記入をご確認ください。
- 本書は大切に保管し、わからないことや不具合が生じたときにお読みください。なお、本機の転売や譲渡などをされる場合は必ず添付してください。

EF1800iS
取扱説明書
第 2 版　2025 年 9月
株式会社Willbeの
書面による許可なしに転載または
無断使用することは禁止されています。
© 2025 株式会社Willbe
Printed in Japan.

重要なマニュアル情報

本書では、正しい取り扱いおよび点検・整備に関する重要事項を下記のシンボルマークで表示しています。

⚠
安全に係る注意情報を意味しています。

⚠ 警 告

取り扱いを誤った場合、死亡または重傷に至る可能性が想定される場合を示してあります。

注 意

取り扱いを誤った場合、傷害に至る可能性または物的損害の発生が想定される場合を示してあります。

要　点

正しい操作の方法や点検整備上のポイントを示してあります。

目次

安全にお使いいただくために 1-1

安全のために必ず守っていただきたいこと 1-1

重要ラベル 1-3

各部の名称と取り扱い 2-1

各部の名称 2-1

各部の取り扱い 2-5

エンジンスイッチ 2-5

オイル警告ランプ（赤色）..... 2-5

燃料タンクキャップ 2-6

アース端子 2-6

エコノミーコントロールスイッチ 2-6

出力インジケーター（緑色）..... 2-7

過負荷警告ランプ（赤色）..... 2-7

リセットボタン 2-7

燃料タンクキャップつまみ 2-8

燃料残量計 2-8

電圧計／アワーメーター 2-8

周波数切替スイッチ 2-9

ブーストモードスイッチ 2-9

並列端子（交流用）..... 2-10

アクセサリーソケット 2-10

交流コンセント 2-10

キャブレタ燃料排出コック 2-11

リコイルスタータハンドル 2-11

運転する前に点検しましょう 3-1

はじめてお使いになる前に 3-1

燃料（自動車用レギュラーガソリン）の給油 3-1

エンジンオイルの給油 3-2

使用前点検 3-4

正しい運転方法 4-1

エンジンの始動 4-1

エンジンの停止 4-3

交流電源の取り出しかた 4-4

直流電源の取り出しかた 4-5

電源の使用可能範囲 4-6

点検と整備 5-1

点検のおすすめ 5-1

使用前点検 5-1

定期点検 5-1

定期点検表 5-1

定期運転・定期交換 5-3

エンジンオイルの交換 5-4

スパークプラグの点検と清掃 5-6

エアクリーナエレメントの清掃 5-8

マフラーワイヤネットの清掃 5-9

燃料タンクストレーナの清掃 5-10

運搬 6-1

短期保管・長期保管 7-1

短期保管 7-1

長期保管 7-3

不具合時の対応 8-1

故障と対策 8-1

仕様諸元 9-1

EF1800iS 9-1

ユーザー情報 10-1

本体識別番号ラベル 10-1

お客様ご相談窓口のご案内 11-1

結線図 12-1

索引（さくいん）..... 13-1

⚠安全にお使いいただくために

安全のために必ず守っていただきたいこと

運転、保守、点検の前に必ずこの取扱説明書とその付属書類、および商品本体に貼付されているラベル全てを熟読し、正しくご使用ください。商品の知識、安全の情報そして注意事項の全てに習熟してからご使用ください。

⚠警　告（行為を禁止する警告文）

- 警告ラベルを汚したり、はがしたりしないでください。
- 排気ガス中毒のおそれあり、排気ガスがこもる場所で使用しないでください。排気ガスは一酸化炭素など有害成分を含んでいますので、室内、車内、倉庫、トンネル、井戸、船倉、タンク、マンホールなど換気の悪い場所や建物や遮へい物で風通しの悪い場所などの排気ガスがこもる場所で使用しないでください。
- 商品の周囲を囲ったり、箱をかぶせて使用しないでください。
- 商品の上にものを乗せて使用しないでください。
- 火災のおそれあり、この発電機は車載用ではありません。車両に積載したまま使用しないでください。
- ヤケドや火災のおそれあり、使用中や使用直後はマフラー部が熱いので、マフラーやマフラー周辺のプロテクタに手足を直接触れたり、カバーを掛けたりしないでください。
- 火災のおそれあり、給油中は、タバコの火や他の火種になるようなものを近づけないでください。
- 火災のおそれあり、商品の周囲や下に危険物（油脂類、セルロイド、火薬など）や燃えやすいもの（枯れ草、わらくず、紙くず、木くずなどの可燃物）を置かないでください。
- 感電、火災のおそれあり、電力会社の電気配線に接続しないでください。接続しますと電気器具や商品の故障、または火災や電気工事関係者の感電事故の原因となります。
- 感電のおそれあり、ぬれた手で商品を操作したり、雨や雪など水のかかる場所では使用しないでください。
- 感電のおそれあり、コンセントにピンや針金などの金属物を差し込まないでください。
- 感電やけがのおそれあり、運転中は点検整備を行わないでください。
- 感電やけがのおそれあり、改造したり、部品を取り外したまま使用しないでください。

⚠警　告（行為を指示する警告文）

- 商品を他人に貸すときは、必ず取扱説明書もいっしょに貸してください。
- 排気ガス中毒や火災のおそれあり、本機を建物や設備から 1 メートル以上離して使用してください。
- 火災のおそれあり、燃料の給油はエンジンを停止し、換気の良い場所で行ってください。
  燃料のガソリンは、高い引火性と爆発性がありますので、取り扱いは充分注意してください。特にエンジン始動前には、ガソリンの漏れがないことを確認してください。

- 火災のおそれあり、給油時にこぼれた燃料は布きれなどできれいにふき取ってください。
- 燃料が皮膚や衣類にこぼれた場合は、石鹸と水で直ちに洗い、衣類は取り替えてください。
- 燃料を飲み込んだり、燃料蒸気を吸い込んだり、または燃料が目に入ったりした場合には、直ちに医師の診察を受けてください。

⚠注　意（行為を禁止する注意文）

- けがのおそれあり、傾斜させて使用しないでください。
- けがのおそれあり、運転中は移動させないでください。
- けがのおそれあり、商品の回転部に棒や針金を入れないでください。
- 感電のおそれあり、運転中はスパークプラグにさわらないでください。
- 感電、けがのおそれあり、子供に使用させないでください。
- 感電、けがのおそれあり、エンジンを始動する前に電気器具を接続しないでください。
- 火災のおそれあり、定格出力を超えた過負荷で使用しないでください。
- 火災のおそれあり、エンジン部、マフラー部が充分に冷えるまで、発電機にカバーを掛けないでください。

⚠注　意（行為を指示する注意文）

- 火災のおそれあり、燃料の種類と規定容量を守って使用してください。
- 商品を自動車などで運搬する場合には、燃料を抜いて倒れないようにしっかり固定してください。
- 毎回使用前に行う始業点検や定期点検は必ず実施してください。
- 使用中に音、臭気、振動などの異状を感じたら、直ちにエンジンを停止して販売店またはサービス店の点検を受けてください。

環境への配慮

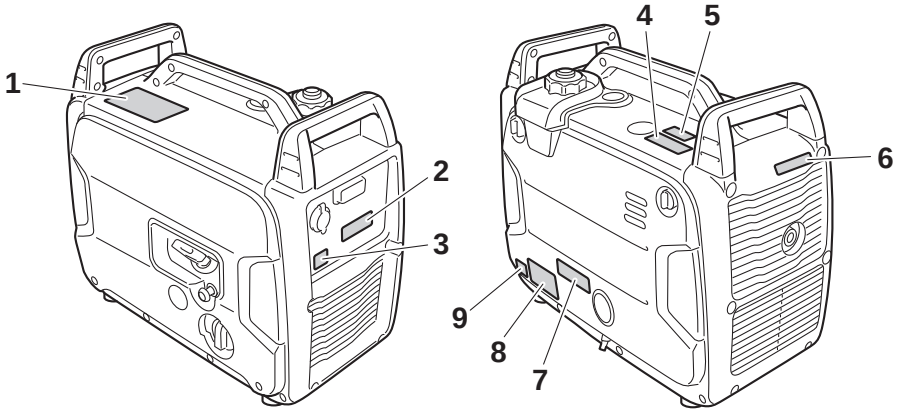
将来、廃棄される場合および廃油などの廃棄処理をされるときは、環境保護のため、お買いあげの販売店またはサービス店にご相談ください。

重要ラベル

商品本体に貼付されているラベル全てを熟読し、正しくご使用ください。

要　点

ラベルは常に手入れを行い、破れたりはがれたりした場合は販売店またはサービス店にご相談して、直ちに新しいものと交換してください。



1

⚠ 警　告

火気厳禁	**火災や爆発のおそれあり** ●給油中はエンジン停止のこと。 ●ガソリン給油口に火気を近づけないこと。 ●こぼれたガソリンは完全に拭き取ること。 ●燃料は赤レベル（規定量）以上入れないこと。 ●可燃物のそばで使用しないこと。 ●建物・設備に排気を向けないこと。 ●商品の周囲を囲ったり、箱をかぶせたり、物を載せて使用しないこと。 ●運搬・保管時は燃料コックと燃料給油キャップつまみを"ＯＦＦ"にすること。		
	排気ガス中毒のおそれあり ●屋内など換気の悪い場所で使用しないこと。 ●人・建物・設備に排気を向けないこと。		**感電のおそれあり** ●雨や雪の中で使用しないこと。 ●コンセントに濡れた手でさわらないこと。
	感電や火災のおそれあり ●電力会社からの電気配線に接続しないこと。		ご使用前に必ず取扱説明書をよく読んで安全にお使いください。

4

⚠ 注　意	感電のおそれあり、スパークプラグにさわらないこと。　高電圧注意

5

⚠ 注　意

スパークプラグは必ず指定のものを使用してください。
指定プラグ：BPR6HS(NGK)

2

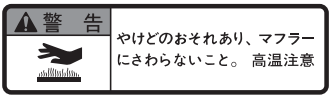
この発電機は 50Hz/60Hz 切替式です。
工場出荷時は 50Hz にセットされています。
60Hz の地域の方は、取扱説明書を参照いただき、60Hz にセットしてください。

3

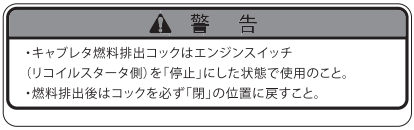
⚠ 警　告

感電のおそれあり
専用の接続コードを使用のこと。

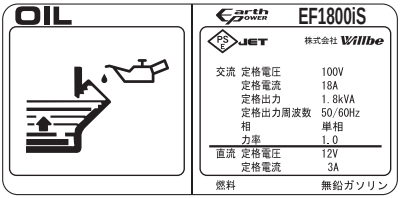
6


警　告
やけどのおそれあり、マフラー
にさわらないこと。 高温注意

7


警　告
・キャブレタ燃料排出コックはエンジンスイッチ
(リコイルスタータ側)を「停止」にした状態で使用のこと。
・燃料排出後はコックを必ず「閉」の位置に戻すこと。

8

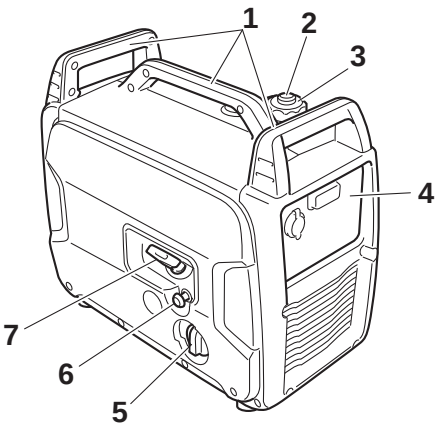

OIL
Earth Power
EF1800iS
PS E
JET
株式会社 Willbe
交流 定格電圧 100V
定格電流 18A
定格出力 1.8kVA
定格出力周波数 50/60Hz
相 単相
力率 1.0
直流 定格電圧 12V
定格電流 3A
燃料 無鉛ガソリン

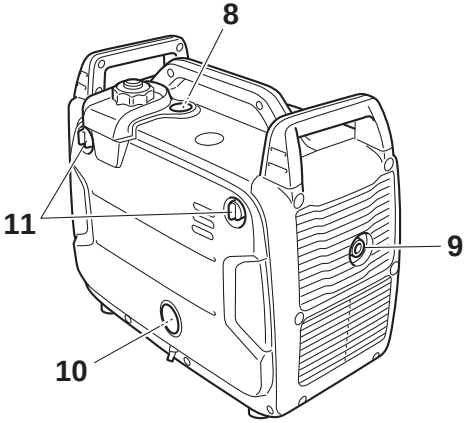
9

LEMA
3 次規制適合

各部の名称と取り扱い

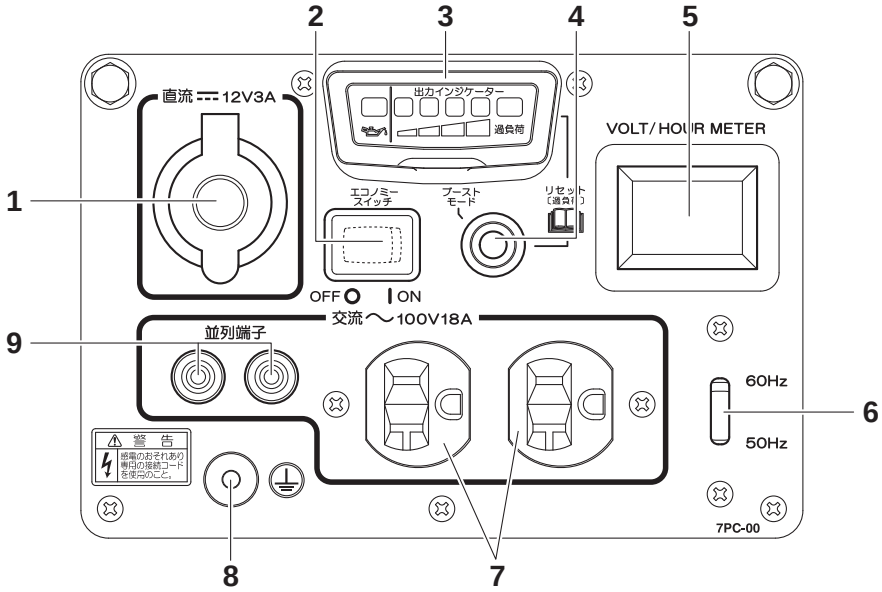
各部の名称





1　ハンドル
2　燃料タンクキャップつまみ（p. 2-8）
3　燃料タンクキャップ（p. 2-6）
4　コントロールパネル（p. 2-1）
5　エンジンスイッチ（p. 2-5）
6　チョークノブ（p. 4-1）
7　リコイルスタータハンドル（p. 2-11）
8　燃料残量計（p. 2-8）
9　マフラー（p. 5-9）
10　キャブレタ燃料排出コック（p. 2-11）
11　スクリュ（p. 3-2）

コントロールパネル



1 アクセサリーソケット（p. 2-10）

2 エコノミーコントロールスイッチ（p. 2-6）

3 多機能 LED メーター（p. 2-1）

4 ブーストモードスイッチ／リセットボタン（p. 2-9/p. 2-7）

5 電圧計／アワーメーター（p. 2-8）

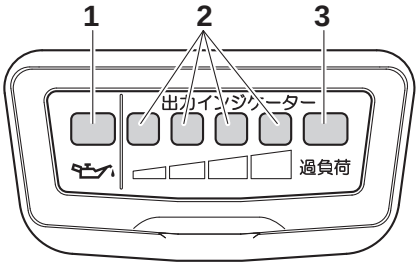
6 周波数切替スイッチ（p. 2-9）

7 交流コンセント（100 V/18 A）（p. 2-10）

8 アース端子（p. 2-6）

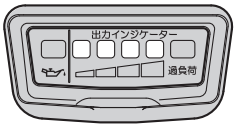
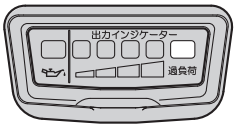
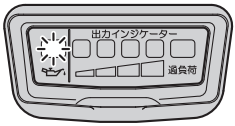
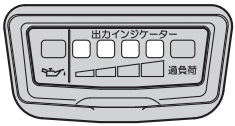
9 並列端子（交流用）（p. 2-10）

多機能 LED メーター



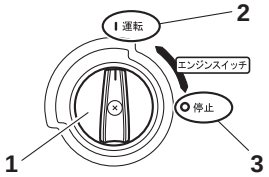
1　オイル警告ランプ（赤色）（p. 2-5）
2　出力インジケーター（緑色）（p. 2-7）
3　過負荷警告ランプ（赤色）（p. 2-7）

この発電機には、多機能 LED メーターが装備されています。各機能は以下のとおりです。

機能	表示	説明	ページ
出力メーター		出力インジケーターが供給電力に応じて点灯します。	2-7
過負荷警告		過負荷が検知されると、出力インジケーターに加え過負荷警告ランプが点灯します。	2-7
オイル警告		エンジンオイル量が低下すると、オイル警告ランプが点滅します。	2-5
ブーストモード表示		ブーストモード時には、出力インジケーターが順次点灯します。	2-9

各部の取り扱い

エンジンスイッチ



点火系統ならびに燃料コックを制御し、エンジンの始動、停止を行います。

1. エンジンスイッチ
2. “I”（運転）
3. “○”（停止）

要　点

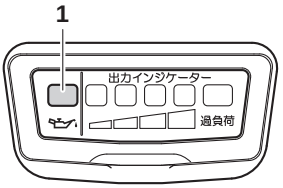
この発電機のエンジンスイッチは、燃料コックの開閉も同時に行います。燃料コックを個別に操作する必要はありません。

“I”（運転）
エンジン運転時の位置です。
“○”（停止）
エンジン停止、または保管および運搬するときの位置です。

注 意

発電機を使用しないときは、エンジンスイッチを“○”（停止）の位置にしてください。

オイル警告ランプ（赤色）



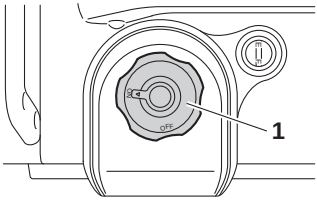
オイル警告ランプは運転中にエンジンオイル量が規定以下になると点滅し、自動的にエンジンを停止させます。また、始動時にエンジンオイル量が規定以下になっているとリコイルスタータハンドルを引いてもオイル警告ランプが点滅し、エンジンは始動しません。

1. オイル警告ランプ（赤色）

要　点

- エンジンが停止したり始動しない場合は、リコイルスタータハンドルを引きながらオイル警告ランプを確認してください。オイル警告ランプが点滅するときはエンジンオイル量が不足していますので、オイル補充後、再度エンジンを始動してください。
- エンジンオイル量が充分にもかかわらずオイル警告ランプが点滅する場合は、発電機が水平に設置され

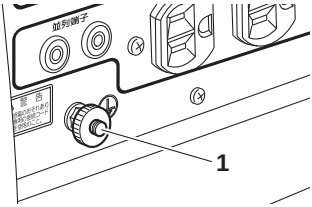
ているか確認してください。



燃料タンクキャップ

燃料タンクキャップは、反時計回りに回して取り外します。

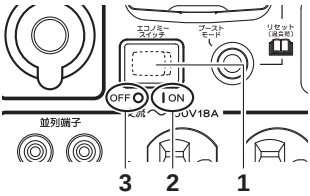
1. 燃料タンクキャップ



アース端子

感電防止のアース線を取り付ける端子です。
アース端子から地面にアースしてください。
使用する電気器具をアースしたときは、発電機も必ずアースしてください。
アース設置工事に関しては、ご購入店にご相談ください。

1. アース端子



エコノミーコントロールスイッチ

燃料消費量や作動音を減らすには、エコノミーコントロールスイッチを使用します。

1. エコノミーコントロールスイッチ
2. “I” (ON)
3. “○” (OFF)

“I” ON（作動中）

エコノミーコントロール装置が作動します。電気器具を使用すると、自動的にエンジンは負荷の大きさに応じた回転となり、電気器具を使用しないときは自動的に低速回転になります。

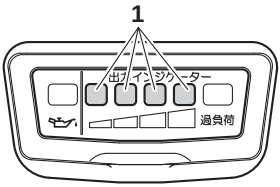
“○” OFF（解除）

エコノミーコントロール装置が解除されます。電気器具の使用の有無にかかわらず、エンジンは定格回転で運転します。

要　点

- コンプレッサや水中ポンプなど、起動時に大電流が流れる電気器具を使用する場合は、エコノミーコントロールスイッチを “○” (OFF) にしてください。

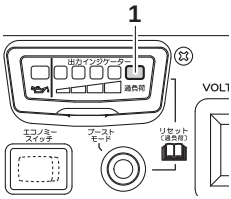
- 発電機の暖機運転中は、エコノミーコントロール装置は機能しません。（4-1 ページ参照）



出力インジケーター（緑色）

出力インジケーター はエンジン始動後、発電が始まると点灯します。点灯するランプの数は、供給電力に応じて変化します。

1. 出力インジケーター（緑色）



過負荷警告ランプ（赤色）

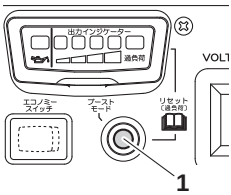
過負荷警告ランプは、接続された電気器具から定格出力を超える電力を要求されたときなどに点灯します。

1. 過負荷警告ランプ（赤色）

過負荷が検知された場合は、接続された全ての電気器具を停止させ、定格出力の範囲に収まるよう、電気器具の総消費電力を減らします。

要　点

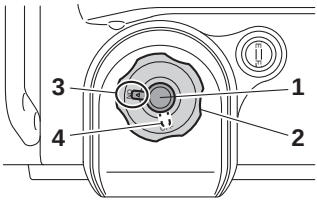
コンプレッサや水中ポンプなど、起動時に大電流が流れる電気器具を使用したとき、過負荷警告ランプが数秒間点灯する場合がありますが、これは故障ではありません。



リセットボタン

過負荷が検知されて出力が停止（ブレーカーが作動）したときは、接続された全ての電気器具を停止させ、リセットボタンを 3 秒間押すことで、出力停止が解除（ブレーカーが解除）されます。

1. リセットボタン

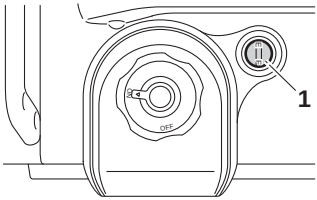


燃料タンクキャップつまみ

燃料タンクキャップつまみは、燃料タンク内部と外気との通気穴の開閉を行います。発電機を運転するときに使用します。

1. 燃料タンクキャップつまみ
2. 燃料タンクキャップ
3. “ON”
4. “OFF”

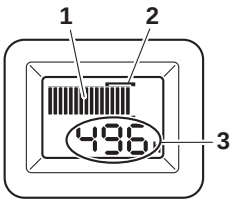
“ON”
発電機を運転するときの位置です。
“OFF”
発電機を停止したとき、または保管および運搬するときの位置です。



燃料残量計

燃料残量計は、燃料タンク内の燃料の残量を示します。お使いになる前に、燃料が充分に入っていることを確認してください。

1. 燃料残量計



電圧計／アワーメーター

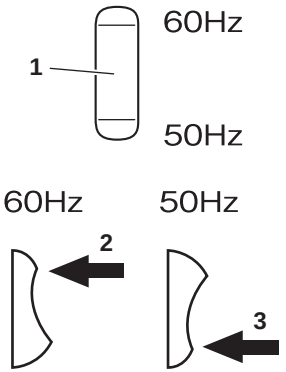
電圧計は、エンジン運転中に発生する交流（AC）の電圧をセグメントの数で表示します。

要　点

セグメントの表示が適正電圧範囲外のときは、販売店またはサービス店へご相談ください。

アワーメーターは、発電機の運転時間を積算し、表示します。

1. 電圧計
2. 適正電圧範囲
3. アワーメーター



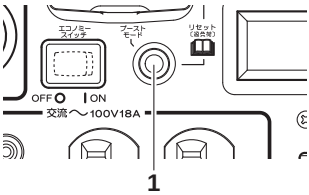
周波数切替スイッチ

周波数切替スイッチは、利用する器具の周波数に合わせて周波数を 50 Hz か 60 Hz のいずれかに切り替えるスイッチです。
60 Hz 仕様の電気器具を接続するときは、周波数切替スイッチの 60 Hz 側を押してください。
また、50 Hz 仕様の電気器具を接続するときは、周波数切替スイッチの 50 Hz 側を押してください。

1. 周波数切替スイッチ
2. 60 Hz 側
3. 50 Hz 側

要　点

- ご購入時には、周波数切替スイッチは 50 Hz にセットされています。
- 周波数の切り替えは、エンジンの停止中に行ってください。
- 電気器具の周波数が不明の場合は、電気器具メーカーにご相談ください。



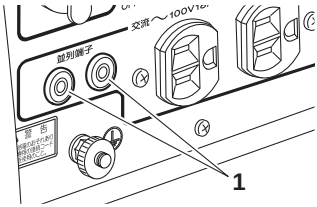
ブーストモードスイッチ

ブーストモードスイッチは、エンジン回転数を一時的に（約 60 秒間）引き上げます。コンプレッサや水中ポンプなど、起動時に大きな負荷がかかる機器を使う場合に、このスイッチを使ってください。
ブーストモードに入るには、ブーストモードスイッチを 3 秒間押します。ブーストモードを解除するには、もう一度ブーストモードスイッチを 3 秒間押します。

1. ブーストモードスイッチ

要　点

ブーストモードに入って約 60 秒経過すると、発電機は自動的に通常モードに戻ります。



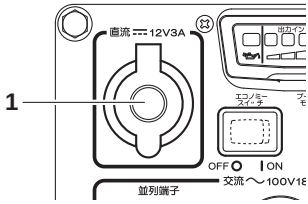
並列端子（交流用）

並列端子(交流用)は、同一の2台の発電機(EF1800iS)を専用のコードを使用して並列に接続するための端子です。
他の発電機（EF1800iS 以外）と接続することはできません。
同一の発電機を 2 台並列で運転した場合、電力 3600 W、電流 36 A が取り出せます。

1. 並列端子（交流用）

要　点

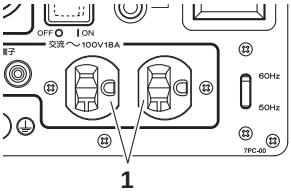
ご使用には、別売りの「並列コードセット」が必要です。また、ご使用にあたっては「並列コードセット」に同梱の「並列コードセット取扱説明書」をよくお読みください。



アクセサリーソケット

この発電機には、カバー付きのアクセサリーソケットが装備されています。携帯電子機器との使用に適しています。

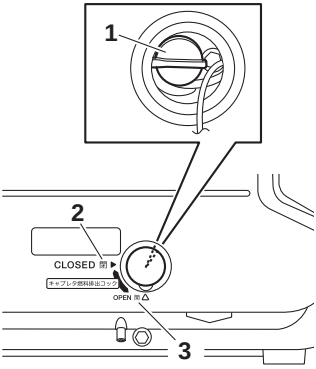
1. アクセサリーソケット



交流コンセント

交流（AC）の単相 100 V、18 A を取り出すことができます。

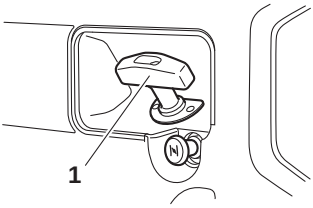
1. 交流コンセント



キャブレタ燃料排出コック

キャブレタ燃料排出コックは、長期保管時にキャブレタに残った燃料を排出するときに使います。
お使いになる前に、キャブレタ燃料排出コックが“CLOSED 閉” の位置にあることを確認してください。

1. キャブレタ燃料排出コック
2. “CLOSED 閉”
3. “OPEN 開”



リコイルスタータハンドル

リコイルスタータハンドルは、エンジンを始動させるときに使用します。

1. リコイルスタータハンドル

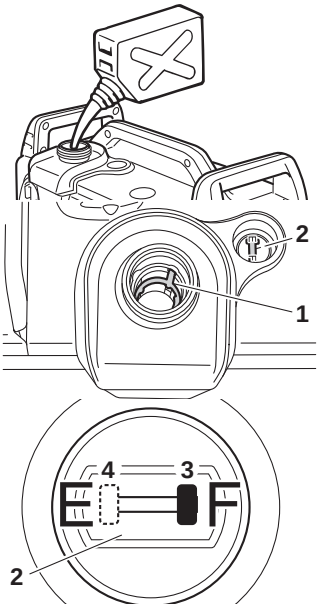
注 意

- **リコイルスタータハンドルは、周囲に引っかかってロープが破損しないよう、まっすぐ引いてください。**
- **リコイルスタータハンドルを引いているときに手をはなすなど、勢いよく戻った衝撃で発電機の部品を破損しないよう、リコイルスタータハンドルはゆっくり戻してください。**
- **発電機の運転中は、思わぬ挙動の原因とならないよう、リコイルスタータハンドルに触れないでください。**

はじめてお使いになる前に

燃料（自動車用レギュラーガソリン）の給油

燃料タンクキャップを外し、燃料（自動車用レギュラーガソリン）を赤レベルまで給油します。
燃料タンク内の燃料の残量は、燃料残量計により確認できます。



1. 赤レベル
2. 燃料残量計
3. 満 “F”
4. 空 “E”

使用燃料：
無鉛ガソリン（自動車用レギュラーガソリン）
燃料タンク容量：
4.7 L（赤レベルまで）

⚠ 警 告

燃料のガソリンは高い引火性と爆発力があるので、次の事項を必ず守ってください。

- **給油は、換気の良い場所でエンジンを停止してから行ってください。**
- **給油中は、タバコの火や他の火種になるようなものを近づけないでください。また、金属部に手を触れるなどして、身体に帯電した静電気を除去してから給油作業を行ってください。静電気の放電による火花などにより、気化した燃料に引火し、ヤケドを負うおそれがあります。**
- **燃料を飲み込んだり、燃料蒸気を吸い込んだり、または燃料が目に入ったりした場合は、直ちに医師の診断を受けてください。また燃料が皮膚や衣類にこぼれた場合は石鹸と水で直ちに洗い、衣類は取り替えてください。**
- **燃料タンクキャップは確実に締めてください。**

注 意

- **燃料の給油時、燃料タンク内に水・雪・氷・ゴミが入らないように注意してください。また、こぼれたときは、直ちに布きれなどで完全にふき取ってください。**
- **異物などがタンク内に入ると、燃料経路をふさいでしまうおそれがありますので、燃料タンクストレーナは必ず取り付けた状態で給油してください。**
- **燃料は規定量以上（ストレーナの赤レベル以上）、給油しないでください。燃料が漏れるおそれがあります。**

要　点

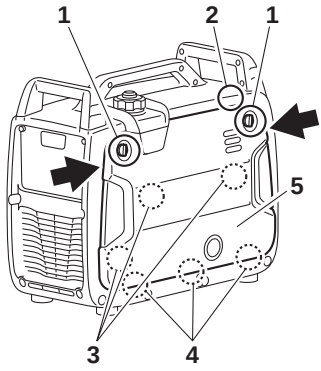
- 燃料はゆっくりと給油してください。
- 燃料は全部なくなる前に、できるだけ早めに補給してください。

エンジンオイルの給油

注 意

- **工場出荷時にはエンジンオイルが給油されていませんので、購入後、最初に使用するときはエンジンオイルを規定量給油してください。**
- **エンジンオイルを規定量以上に給油しないでください。エンジンオイルを入れ過ぎた状態で始動すると、エンジンが停止する、白煙が出るなど、不調の原因となります。**

1. 発電機を水平に設置します。

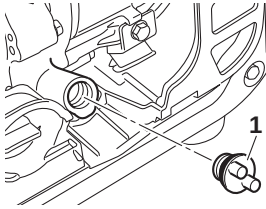


2. 背面にある 2 個のパネル取り外し用のスクリュを反時計回りに約 10 回転程回しゆるめます。パネル上部のボッチ部を手前に引き隙間を作り、スクリュ横（矢印部分）に手を入れパネル全体を手前に引き、取り外します。

1. スクリュ
2. ボッチ部
3. 突起
4. ツメ
5. パネル

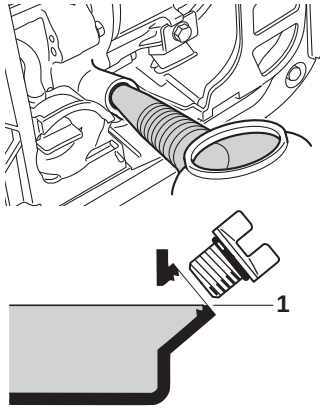
要　点

パネル裏面にある突起はゴム穴に嵌っているため脱着時に硬く感じることがあります。
パネル下部にツメがあるため注意して取り外してください。



3. オイルプラグを取り外します。

1. オイルプラグ



4. エンジンオイルを規定量（注入口の口元まで）給油します。

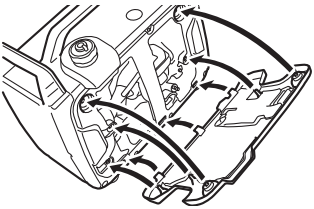
1. 規定量

推奨オイル：
4 ストロークガソリンエンジンオイル（SAE 10W-30 もしくは 10W-40 API 分類 SE 級以上）

エンジンオイル規定量：
0.4 L

要　点

- エンジンオイルの交換は、（5-4 ページ参照）を確認してください。
- エンジンオイルの給油は、発電機本体を水平状態にして行ってください。
- こぼれたエンジンオイルは必ずふき取ってください。



5. オイルプラグを取り付け、確実に締め付けます。
6. パネルを取り付けます。

使用前点検

警 告

正常でない項目がある場合は、お使いになる前に点検と修理を行ってください。

要　点

使用前点検は、お使いになる前に毎回実施してください。

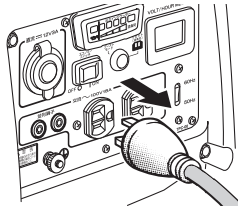
- **キャブレタ燃料排出コック**
  - “CLOSED 閉” になっているか点検します。
- **燃料（3-1 ページ参照）**
  - 燃料タンク内の燃料の残量を点検します。
  - 必要に応じて、給油します。
- **燃料ライン**
  - エンジンスイッチを “I”（運転）にしたときに、発電機から燃料が漏れていないかを点検します。
  - 必要に応じて、販売店にご相談ください。
- **エンジンオイル（3-2 ページ参照）**
  - エンジン内のオイル量を点検します。
  - 必要に応じて、推奨オイルを規定量まで補充します。
  - 発電機にオイル漏れがないかを点検します。

- **前回の使用で異常が認められた箇所**
  - 異常な作動が認められた場合は、販売店にご相談ください。

エンジンの始動

⚠ 警 告

換気や風通しが不充分で排気ガスがこもる場所ではエンジンを始動しないでください。

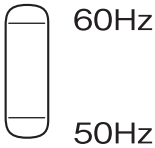


注 意

エンジンを始動する前に電気器具を接続しないでください。

要　点

新規購入後またはキャブレタ燃料排出コックを利用して燃料を発電機から抜いた後は、燃料を給油しても自動的に全ての始動系には燃料が供給されません。そのため、エンジンを始動するまでに数回リコイルスタータハンドルを引く必要がある場合があります。

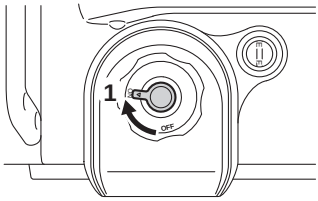


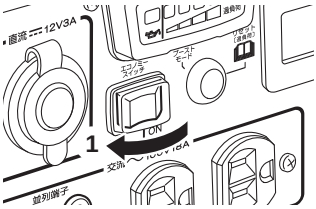
1. 周波数切替スイッチを使用する電気器具の周波数に合わせます。

2. 燃料（自動車用レギュラーガソリン）の量を点検します。

3. 燃料タンクキャップつまみを “ON” にします。

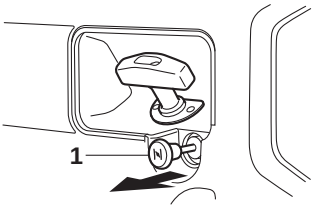
1. “ON”





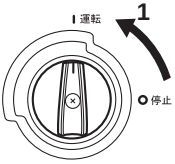
4. エコノミーコントロールスイッチを“○”（OFF）にします。

1. “○”（OFF）



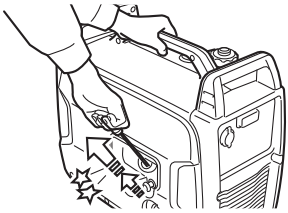
5. チョークノブを引いて、始動の位置にします。エンジンが暖まっているときは、チョークノブを始動の位置にする必要はありません。

1. チョークノブ



6. エンジンスイッチを “I”（運転）の位置にします。

1. “I”（運転）



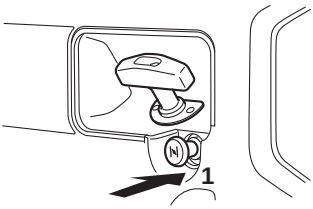
7. リコイルスタータハンドルを軽く引き出し、リコイルスタータハンドルが重くなった状態から勢いよく引いてエンジンを始動します。

注 意

- **リコイルスタータハンドルは、周囲に引っかかってロープが破損しないよう、まっすぐ引いてください。**
- **リコイルスタータハンドルを引くときは、発電機が倒れないように手でハンドルを押さえてください。**
- **リコイルスタータハンドルを引いているときに手をはなすなど、勢いよく戻った衝撃で発電機の部品を破損しないよう、リコイルスタータハンドルはゆっくり戻してください。**

要　点

リコイルスタータハンドルを数回引いてエンジンが始動しないときは、チョークノブを元に戻してリコイルスタータハンドルを引いてください。



8. エンジン回転数が安定したら、チョークノブを運転の位置にします。

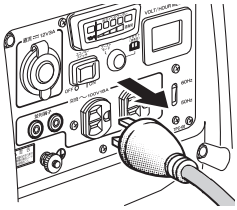
1. 運転の位置

9. しばらく暖機運転します。

要　点

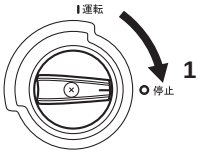
気温が 5 °C 以下の場合は、エコノミーコントロールスイッチが “I” （ON）でも自動的にエンジン回転数が 4900 r/min に上昇し、約 3 分間暖機運転します。気温が 0 °C 以下の場合は、4900 r/min で約 5 分間暖機運転します。その後、自動的に低速運転に切り替わります。

エンジンの停止



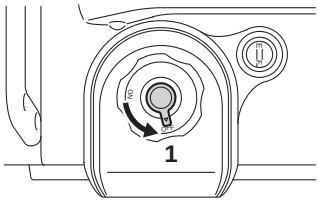
1. 電気器具のスイッチを OFF（切）にします。

2. 電気器具のプラグをコンセントから抜きます。



3. エンジンスイッチを “○” （停止）の位置にしてエンジンを停止します。

1. “○” （停止）



4. エンジンが充分に冷えてから、燃料タンクキャップつまみを “OFF” にします。

1. “OFF”

交流電源の取り出しかた

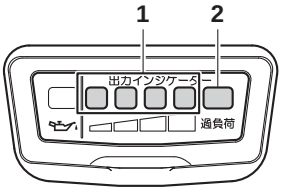
注 意

- **発電機は接続された電気器具の負荷の変化に合わせて電圧が変化しますので、電圧変化に敏感な電気器具は使用しないでください。**
- **接続の可否が不明確な場合は電気器具会社にご相談ください。**
- **コンセントにほこり、汚れ、水などが付いている場合は、除去してから使用してください。**

1. エンジンを始動します。（4-1 ページ参照）

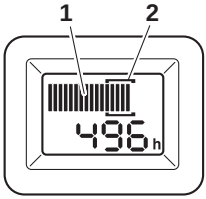
2. 出力インジケーター全灯と過負荷警告ランプが点灯することを確認します。

3. 出力インジケーターと過負荷警告ランプが消灯し、出力インジケーター 1 灯のみ点灯することを確認します。



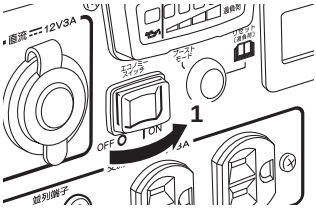
1. 出力インジケーター（緑色）
2. 過負荷警告ランプ（赤色）

4. 電圧計のセグメントが適正電圧範囲内を示しているか確認します。

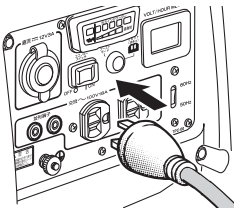


1. セグメント
2. 適正電圧範囲

5. 必要に応じて、エコノミーコントロールスイッチを “I” （ON）にします。



1. “I” （ON）



6. 電気器具のプラグを交流コンセントに差し込みます。

要　点

- 電気器具のスイッチが OFF（切）になっていることを必ず確認してから差し込んでください。
- 交流コンセントには単相100 V で合計消費電流18 A 以下の電気器具のプラグを差し込みます。

7. 電気器具の電源を入れます。

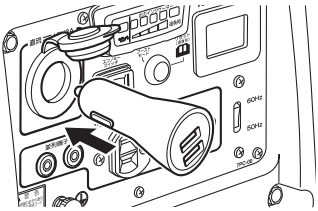
直流電源の取り出しかた

注 意

直流（DC）と交流（AC）を同時に取り出す場合の交流（AC）の器具の電力は、次の範囲を守ってください。
60 Hz — 1764 W まで
50 Hz — 1764 W まで

要　点

アクセサリーソケットは、携帯電話や GPS ユニット、タブレットなどの機器の充電に適しています。



1. エンジンを始動します。（4-1 ページ参照）
2. 電気器具のプラグをアクセサリーソケットに差し込みます。
3. 電気器具の電源を入れます。

電源の使用可能範囲

電気器具ごとに、おおむね下表の取り出し可能範囲まで使用できます。使用する電気器具の消費電力（W）をお確かめの上、ご使用ください。

電気器具		取り出し可能範囲 50 Hz ／ 60 Hz	備考
交流	照明・電熱器・ラジオ・テレビ・ステレオなど	100 V、1764 W まで	力率＝ 1
	電動工具類	100 V、1404 W まで	力率＝ 0.8-0.95
	汎用モーター類	100 V、612 W 程度まで	力率＝ 0.4-0.75 （効率 85 %）
直流（アクセサリーソケット）		12 V、3 A 以下	

注 意

- **電気器具の合計負荷（交流、直流の合計）が発電機の取り出し可能範囲を超えた過負荷で使用しないでください。発電機損傷の原因となります。**
- **精密機器・電子制御機器・パソコン・電子計算機・マイコン付機器および充電器類への使用は、発電機のエンジンノイズ（原動機雑音）の影響を受けない距離を確保してください。また、近くにある他の電気製品がエンジンノイズ（原動機雑音）に影響されないことを確認してください。**
- **医療機器への使用は、事前に医療機器会社・医師・病院などに確認の上ご使用ください。**
- **電気工具類・汎用モーター類の一部には、取り出し可能範囲が上記表内の数値内でも起動電流が大きく使用できないことがあります。この場合は電気器具メーカーにご相談ください。**

要　点

- 取り出し可能範囲を超えた場合、または電気器具に異常があった場合は、電気の供給が遮断されます。
- 過負荷警告ランプは、接続された電気器具から定格出力を超える電力を要求されたときなどに点灯します。
- コンプレッサや水中ポンプなど、起動時に大電流が流れる電気器具を使用したとき、過負荷警告ランプが数秒間点灯する場合がありますが、これは故障ではありません。

点検と整備

お客様の安全と、発電機の故障と事故を未然に防ぐために実施してください。

点検のおすすめ

⚠ 警 告

- **エンジン運転中および停止直後は、エンジン本体、マフラー周辺のプロテクタやエキゾーストパイプなどが熱くなっています。手足で直接触れないでください。ヤケドにご注意ください。**
- **排気ガスは、一酸化炭素など有害な成分を含んでいます。換気の悪い場所や、風通しの悪い場所でエンジンを始動しての点検はしないでください。**
- **重大な事故・故障の原因になりますので、始業点検・定期点検を必ず実施してください。**
- **異状が認められた場合は、ご使用のかたご自身、もしくは販売店またはサービス店で必ず整備を行ってください。**

使用前点検

お客様が発電機をご使用する前に点検を行ってください。（3-4 ページ参照）
点検箇所に異状がある場合は、販売店またはサービス店で点検・整備を受けてください。

定期点検

お客様のお申し付けにより、販売店またはサービス店が実施します。お客様の責任で必ず点検を受けてください。

定期点検表

対象部品	点検項目	始業点検	6ヶ月毎または100 時間運転毎	12ヶ月毎	300 時間運転毎
エンジンオイル	• 量の点検	○			
	• 交換		○（*1）		
燃料	• 量、漏れの点検	○			
フューエルホース	• 亀裂、損傷の点検			★	
スパークプラグ	• 清掃、必要に応じて調整、交換				○

対象部品	点検項目	始業点検	6ヶ月毎または100時間運転毎	12ヶ月毎	300時間運転毎
エアクリーナ	• 点検、必要に応じて清掃		○（*2）		
マフラーワイヤネット	• 点検、必要に応じて清掃		○		
燃料タンクストレーナ	• 点検、必要に応じて清掃	○			
	• 亀裂の確認			○	
燃料コックストレーナ	• 詰まりの目視点検および清掃			★	
ブリーザーホース	• 亀裂、損傷の確認			★	
シリンダーヘッド部	• 点検、必要に応じて清掃				★
吸入、排気バルブ	• バルブクリアランスの点検、必要に応じて調整				★
リコイルロープ	• 引き出し可能範囲のささくれと摩耗の点検	○			
本体各部	• 外装カバーの破損、外れ	○			
外装	• 取り付けボルトのゆるみ確認		○		
出力の点検	• 出力インジケーターの点灯確認	○			
	• 電圧計の適正範囲内確認	○			
前回の使用で異常が認められた箇所		○			

*1：初回は1ヶ月もしくは20時間運転時に実施してください。
*2：ほこりの多い場所で作業した場合は、定期点検時期より早めに点検を行ってください。
★：この項目は整備に関する専門知識、工具、技術を必要としますので、販売店またはサービス店へお申し付けください。

定期運転・定期交換

格納中であっても発電機を緊急で使用することが予測される場合は、ここに示す定期運転、定期交換を行って緊急時に備えてください。

- **定期運転**
  1 ヶ月に 1 度定期的に発電機を運転（約 10 分）し、電気器具を接続して運転状態を点検してください。
- **定期交換**
  燃料（自動車用レギュラーガソリン）を満タンの状態で保管する場合は、燃料の変質による始動不良を防止するため、3 ヶ月に 1 回は燃料タンク内の燃料を交換してください。

⚠ 警 告

- **本書での指示なき作業などを行うときにも、必ずエンジンを止めてください。**
- **お客様自身が整備作業についてあまり熟知されていない場合は、販売店またはサービス店へ作業を依頼してください。**

交換部品は、必ず純正部品、または指定されたものを使ってください。

エンジンオイルの交換

⚠ 警 告

油脂類の廃液は法令（公害防止条例）で適切な処理を行うことが義務づけられていますので、販売店またはサービス店へご相談ください。

1. エンジンを始動し、2 ～ 3 分暖機運転します。

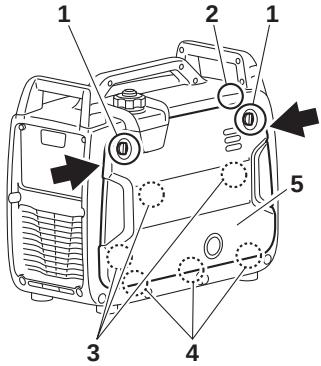
2. エンジンスイッチを “○” （停止）の位置にしてエンジンを停止します。

⚠ 警 告

エンジン停止直後はエンジンオイルが熱くなっていますので、すぐに排出しないでください。

3. 排出するエンジンオイルを受け取る容器を用意します。

4. 背面にあるパネル取り外し用のスクリュを反時計回りに約 10 回転程回しゆるめます。パネル上部のボッチ部を手前に引き隙間を作り、スクリュ横（矢印部分）に手を入れパネル全体を手前に引き、取り外します。

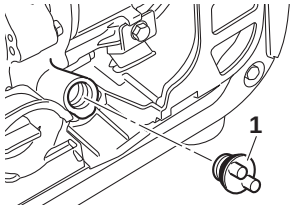


1. スクリュ
2. ボッチ部
3. 突起
4. ツメ
5. パネル

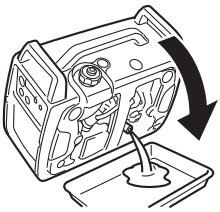
要　点

パネル裏面にある突起はグロメットに嵌っているため脱着時に硬く感じることがあります。
パネル下部にツメがあるため注意して取り外してください。

5. オイルプラグを取り外します。



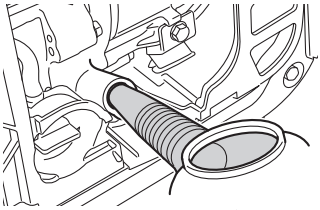
1. オイルプラグ

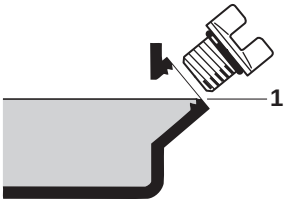


6. 発電機本体を傾けてエンジンオイルを抜きます。

要　点

初回は 20 時間目、その後は 100 時間毎に交換してください。





7. 新しいエンジンオイルを規定量（注入口の口元まで）給油します。

1. 規定量

推奨オイル：
4 ストロークガソリンエンジンオイル（SAE 10W-30 もしくは 10W-40 API 分類 SE 級以上）

エンジンオイル規定量：
0.4 L

注 意

エンジンオイルを規定量以上に給油しないでください。エンジンオイルを入れ過ぎた状態で始動すると、エンジンが停止する、白煙が出るなど、不調の原因となります。

要　点

- エンジンオイルの給油は発電機本体を水平状態にして行ってください。
- こぼれたエンジンオイルは必ずふき取ってください。

8. オイルプラグを取り付け、確実に締め付けます。

9. パネルを取り付けます。

スパークプラグの点検と清掃

スパークプラグは、点検が簡単な重要部品です。
スパークプラグは徐々に劣化しますので、定期的に外して点検を行う必要があります。

⚠ 警 告

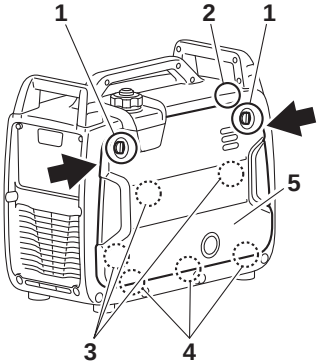
エンジン停止直後は、スパークプラグやエンジン本体が熱くなっていますので、ヤケドに注意してください。

要　点

ツール類は発電機に同梱されていません。20.8 mm のプラグレンチを用意してください。

1. エンジンスイッチを “○”（停止）の位置にしてエンジンを停止します。

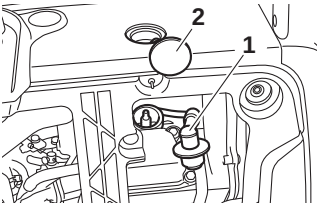
2. 背面にあるパネル取り外し用のスクリュを反時計回りに約 10 回転程回しゆるめます。パネル上部のボッチ部を手前に引き隙間を作り、スクリュ横（矢印部分）に手を入れパネル全体を手前に引き、取り外します。



1. スクリュ
2. ボッチ部
3. 突起
4. ツメ
5. パネル

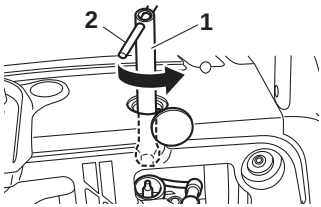
要　点

パネル裏面にある突起はグロメットに嵌っているため脱着時に硬く感じることがあります。
パネル下部にツメがあるため注意して取り外してください。



3. スパークプラグキャップおよびアクセスキャップを取り外します。

1. スパークプラグキャップ
2. アクセスキャップ



4. スパークプラグレンチを使って、スパークプラグを外します。

1. スパークプラグレンチ
2. ハンドルバー

⚠ 警 告

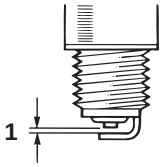
スパークプラグの脱着の際は、碍子を損傷させないように注意してください。碍子が損傷すると、電気が漏れて火災などを誘発するおそれがあります。

5. スパークプラグの焼け具合を点検します。通常はキツネ色に焼けますが、黒くくすぶっていたり白く焼けていたときはエアクリーナを点検します。

6. 電極付近の汚れ（カーボン）を落とします。

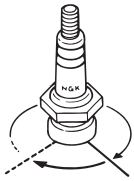
7. スパークプラグ認識番号とスパークプラグギャップを点検します。

1. スパークプラグギャップ



スパークプラグ認識番号：
NGK BPR6HS
スパークプラグギャップ：
0.6 ～ 0.7 mm

8. スパークプラグを取り付け、規定のトルクで締め付けます。



締付トルク：
20 N·m (2.0 kgf·m)

要　点

スパークプラグを取り付ける際にトルクレンチが準備できないときは、指でいっぱいに締め込んだ後、プラグレンチを使って 1/4 ～ 1/2 回転更に締め込んでください。
できるだけ早い時期に、トルクレンチを使って正規のトルクで締めてください。

9. スパークプラグキャップおよびアクセスキャップを取り付けます。

10. パネルを取り付けます。

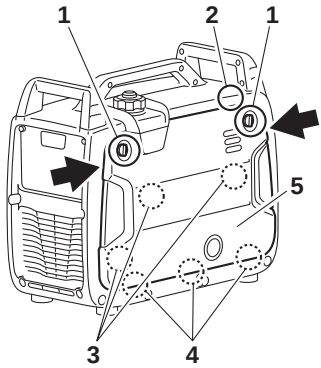
エアクリーナエレメントの清掃

要　点

ほこりの多い場所で使用した場合は、定期点検時期より早めに清掃してください。

1. エンジンスイッチを “○”（停止）の位置にしてエンジンを停止します。

2. 背面にあるパネル取り外し用のスクリュを反時計回りに約 10 回転程回しゆるめます。パネル上部のボッチ部を手前に引き隙間を作り、スクリュ横（矢印部分）に手を入れパネル全体を手前に引き、取り外します。

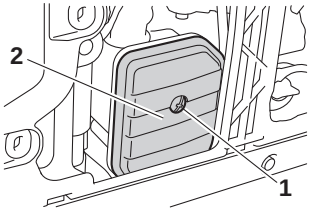


1. スクリュ
2. ボッチ部
3. 突起
4. ツメ
5. パネル

要　点

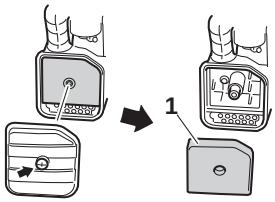
パネル裏面にある突起はグロメットに嵌っているため脱着時に硬く感じることがあります。
パネル下部にツメがあるため注意して取り外してください。

3. スクリュを取り外し、エアクリーナカバーを取り外します。



1. スクリュ
2. エアクリーナカバー

4. エレメントをエアクリーナ本体から外します。

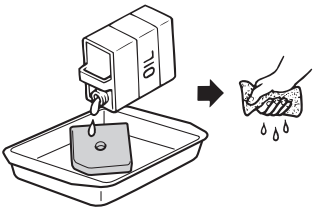


1. エレメント

5. エレメントをきれいな白灯油で洗浄します。

⚠ 警 告

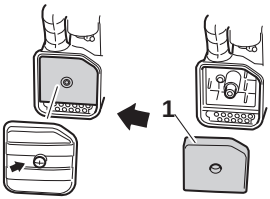
- **タバコの火や他の火種になるようなものを近づけないでください。火災の原因になります。**
- **油脂類の廃液は法令（公害防止条例）で適切な処理を行うことが義務づけられていますので、販売店またはサービス店へご相談ください。**



6. エレメントをエンジンオイルなどにひたし、その後余分なオイルを取り除きます。

注 意

エレメントは絶対にきつく絞らないでください。破れてエンジンが不調になることがあります。



7. エレメントをエアクリーナ本体にはめ込みます。

1. エレメント

注 意

エレメントを取り付けていない状態ではエンジンを絶対に始動させないでください。ピストンやシリンダーの摩耗の原因になります。

8. エアクリーナカバーを元の位置に戻し、スクリュを締め付けます。

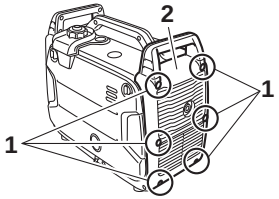
9. パネルを取り付けます。

マフラーワイヤネットの清掃

⚠ 警 告

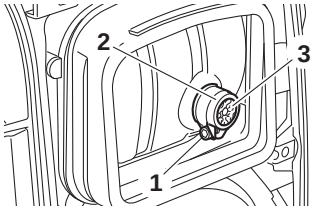
エンジン停止直後はエンジン本体やマフラー、エキゾーストパイプなどが熱くなっていますので、ヤケドに注意してください。点検や整備は、充分にエンジン本体やマフラー、エキゾーストパイプなどが冷えてから行ってください。

1. エンジンスイッチを “○” （停止）の位置にしてエンジンを停止します。



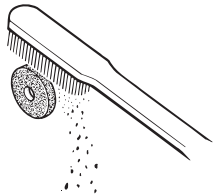
2. ボルトを外し、カバーを外側に引いて取り外します。

1. ボルト
2. カバー

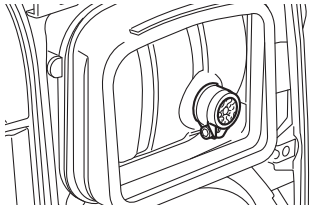


3. マフラーキャップボルトをゆるめて、マフラーキャップ、マフラーワイヤネットを取り外します。

1. マフラーキャップボルト
2. マフラーキャップ
3. マフラーワイヤネット



4. ワイヤブラシを使用して、マフラーワイヤネットの汚れを取り除きます。



5. マフラーワイヤネットとマフラーキャップを取り付けて、マフラーキャップボルトを締め付けます。

締付トルク：
3.5 N·m (0.35 kgf·m)

6. カバーを取り付けて、ボルトを締め付けます。

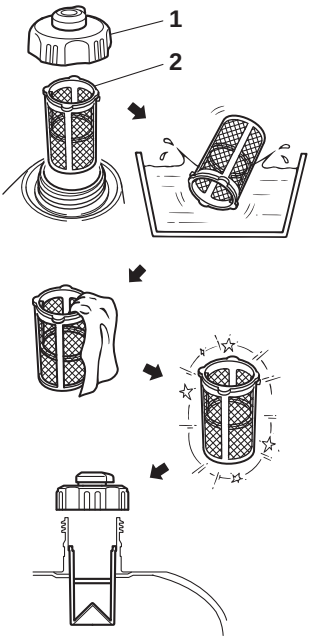
締付トルク：
7 N·m (0.7 kgf·m)

燃料タンクストレーナの清掃

要　点

ストレーナが短期間に汚れる場合は、燃料タンク内に汚れが溜まっていることがあります。

1. エンジンスイッチを “○” （停止）の位置にしてエンジンを停止します。



2. 燃料タンクキャップおよびストレーナを取り外します。

1. 燃料タンクキャップ
2. 燃料タンクストレーナ

3. ガソリンを使ってストレーナを洗浄します。

⚠ 警 告

タバコの火や他の火種になるようなものを近づけないでください。火災の原因になります。

要　点

ストレーナが破損している場合は新品と交換してください。

4. ストレーナをふいて燃料タンクに挿入します。

5. 燃料タンクキャップを取り付けます。

⚠ 警 告

燃料タンクキャップはしっかりと締め付けてください。燃料がこぼれ、火災の原因になります。

運搬

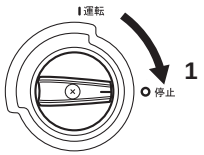
発電機を自動車・トラックなどの車両で運搬する場合は、次の項目を守ってください。

⚠ 警 告

- **振動、衝撃などで燃料タンクの燃料（自動車用レギュラーガソリン）がこぼれるおそれがありますので、燃料タンクに燃料を給油したまま運搬しないでください。**
- **燃料が気化して引火するおそれがありますので、発電機を車内やトランクなどに積載したまま、長い時間直射日光の当たる場所に放置しないでください。**
- **火災のおそれがありますので、予備の燃料は消防法に適合した鉄製の携帯タンクに保管してください。**
- **火災のおそれあり、車両に積載したまま使用しないでください。**

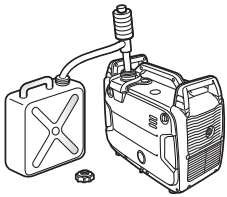
注 意

発電機の上にものを置かないでください。

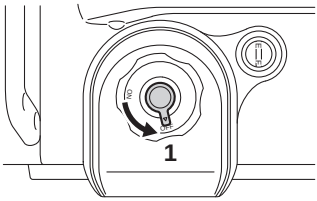


1. エンジンスイッチを “○”（停止）の位置にしてエンジンを停止します。

1. “○”（停止）



2. 燃料タンクキャップおよびストレーナを取り外し、市販のポンプを使用して燃料（自動車用レギュラーガソリン）を抜きます。なお、電動式ポンプは使用しないでください。



3. 燃料タンクキャップおよびストレーナを取り付け、燃料タンクキャップつまみを “OFF” にします。

1. “OFF”

⚠ 警 告

- **燃料タンクキャップは確実に締めてください。**
- **こぼれた燃料は直ちに布きれなどで完全にふき取ってください。火災のおそれがあります。**

4. 車両に積載し、発電機をロープなどで確実に固定します。

注 意

発電機が移動、転倒、落下、破損などしないような位置に積載してください。

短期保管・長期保管

短期保管

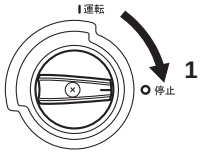
使用後または定期運転後、次回の使用が 3ヶ月以降になる場合は、1 ～ 9 の作業を行って保管し、次に使用するときに備えてください。

注 意

燃料（自動車用レギュラーガソリン）が自然劣化してエンジンの始動が困難になる場合がありますので、燃料は抜いてください。

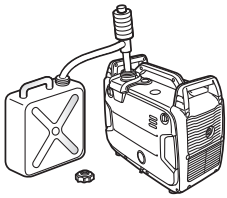
要　点

排出する燃料を受け取る容器を用意してください。



1. エンジンスイッチを “○” （停止）の位置にしてエンジンを停止します。

1. “○” （停止）

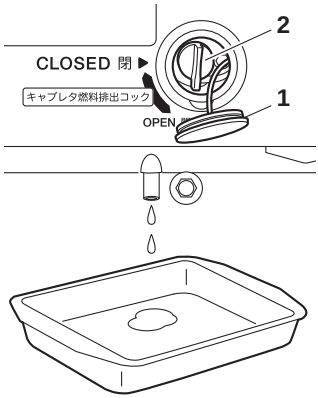


2. 燃料タンクキャップおよびストレーナを取り外し、市販のポンプを使用して燃料（自動車用レギュラーガソリン）を抜きます。なお、電動式ポンプは使用しないでください。

3. 燃料タンクキャップおよびストレーナを取り付けます。

⚠ 警 告

- **燃料タンクキャップは確実に締めてください。**
- **こぼれた燃料は直ちに布きれなどで完全にふき取ってください。火災のおそれがあります。**



4. キャブレタ燃料排出コックを “OPEN 開” にして、キャブレタから燃料を抜きます。

1. キャップ
2. キャブレタ燃料排出コック

⚠ 警 告

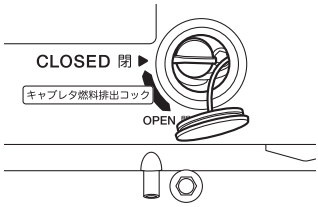
こぼれた燃料は直ちに布きれなどで完全にふき取ってください。火災のおそれがあります。

注 意

工具を用いてキャブレタ燃料排出コックを回さないでください。破損の原因になります。

要 点

- キャブレタ内のガソリンを抜かずに長期間放置すると、ガソリンが変質しエンジンがかからなくなる場合があります。
- キャブレタから燃料を排出するときは、発電機を水平に設置してください。

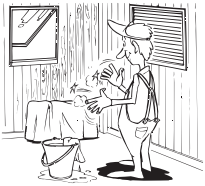


5. キャブレタ燃料排出コックを “CLOSED 閉” にします。

6. リコイルスタータハンドルを2～3回引きます。重くなったところで止めます。

7. 燃料タンクキャップつまみを “OFF” にします。

8. ゆるみがあれば、各ボルト・ナット・スクリュを増し締めします。



9. 室内で湿気が少なく換気の良い場所に保管します。

注 意

火災のおそれがありますので、発電機にカバーを掛ける場合は、エンジン部、マフラー部が充分に冷えてから行ってください。

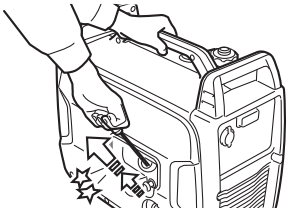
長期保管

長期間にわたって使用しない場合は、次のことを行って格納し、次に使用するときに備えてください。

1. “短期保管” の１～８の作業を行います。

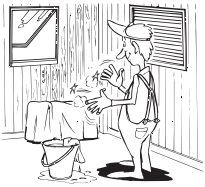
2. スパークプラグを外し、プラグ孔よりエンジンオイルを３～５ mL 給油します。

3. リコイルスタータハンドルを2～3回引いた後、スパークプラグを取り付け、規定のトルクで締め付けます。



4. リコイルスタータハンドルを引き、重くなった状態（圧縮状態）にします。

5. 各部をきれいに清掃して防錆処理をします。



6. 発電機にカバーを掛け、室内で湿気が少なく換気の良い場所に格納します。

不具合時の対応

故障と対策

ここでは、想定できる原因と解決方法を示しています。
修理のご依頼がありましたら、販売店にお申し付けください。

エンジンが始動しない

部品	確認内容	処理内容	ページ
燃料	燃料タンクに燃料はありますか？	給油してください。	3-1
	エンジンスイッチは “I”（運転）の位置になっていますか？	エンジンスイッチを “I”（運転）の位置にしてください。	2-5
	燃料タンクキャップつまみが閉じていませんか？	燃料タンクキャップつまみを “ON” の位置にしてください。	2-8
	前回使用後、保管の手順に沿って、燃料を抜きましたか？	燃料ライン、キャブレタ内の詰まりが疑われます。販売店にご相談ください。	—
エンジンオイル	エンジンオイル量が不足していませんか？	エンジンオイルを補充してください。	3-2
スパークプラグ	スパークプラグがカーボンや湿気で汚れていませんか？	堆積物を除去し、きれいにふいてください。	5-6

機器が突然動かなくなった

部品	確認内容	処理内容	ページ
コンセント	コンセントが抜けていませんか？	コンセントを確実に接続してください。	4-4, 4-5
出力インジケーター	出力インジケーターが消灯していませんか？	エンジンが正しく始動しているか確認してください。	4-1
過負荷警告ランプ	過負荷警告ランプが点灯していませんか？	定格出力が守られているか確認してください。	2-7
	過負荷警告ランプが点滅していませんか？	販売店にご相談ください。	—

出力インジケーターが消灯している

部品	確認内容	処理内容	ページ
過負荷警告ランプ	過負荷警告ランプが点灯していませんか？	定格出力が守られているか確認してください。	2-7
	過負荷警告ランプが点滅していませんか？	販売店にご相談ください。	—
	過負荷警告ランプ点灯時にリセット操作を試みてもリセットできない。	販売店にご相談ください。	—

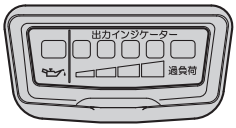
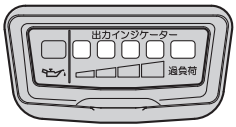
過負荷警告ランプが消えない

部品	確認内容	処理内容	ページ
コンセント	使用機器をコンセントから外しましたか？	コンセントから機器を外してください。	—

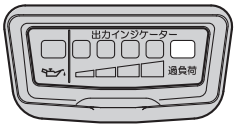
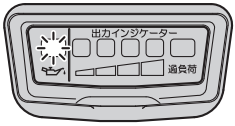
昨日まで使えた機器が使えない

部品	確認内容	処理内容	ページ
電気器具	コードリール（延長コード）を使用していませんか？	延長コードを使わず、直接機器を接続してください。	—
	電圧降下で機器が使えない状態ではありませんか？	電圧変動に敏感な機器の使用は推奨されません。また、定格出力が守られているか確認してください。	4-6

多機能 LED メーター が異常点滅／異常点灯する

表示	確認内容	処理内容	ページ
	エンジン始動時に出力インジケーター（4 灯）と過負荷警告ランプ（1 灯）のうちいずれかもしくは複数が点灯しない。	販売店にご相談ください。	—
	エンジン始動直後、出力インジケーターと過負荷警告ランプが数秒間点灯する。	異常ではありません。多機能 LED メーターの自己診断機能の作動中です。	—

不具合時の対応

表示	確認内容	処理内容	ページ
	出力インジケーターに続き、過負荷警告ランプが点灯する。	エンジンが過負荷状態です。全ての電気器具を停止させ、定格出力の範囲内に収まるよう、総消費電力を減らします。出力インジケーターの消灯中に、リセットボタンを３秒間押します。交流コンセントから出力されます。	2-7
	オイル警告ランプが点滅する。	エンジンオイルを補充してください。発電機を水平に設置してください。	3-2

その他の異常は、販売店にご相談ください。

仕様諸元

EF1800iS

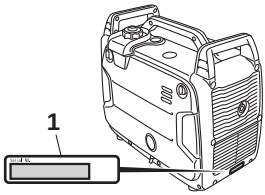
寸法：	
全長	555 mm
全幅	300 mm
全高	470 mm
乾燥重量	25 kg
エンジン：	
エンジン種類	空冷 4 ストロークガソリン OHV エンジン
総排気量	79 cm³
運転時間	定格連続運転時：約 3.7 時間、 1/4 負荷連続運転時：約 9.1 時間 *1
使用燃料	無鉛ガソリン（自動車用レギュラーガソリン）
燃料タンク容量	4.7 L
エンジンオイル規定量	0.4 L
点火方式	CDI
スパークプラグ	BPR6HS (NGK)
プラグギャップ	0.6 ～ 0.7 mm
騒音レベル *2	92 dB/LWA, 57 ～ 65 dB (A)/7 m
発電機：	
交流	
定格電圧	100 V
定格周波数	50/60 Hz
定格電流	18.0 A
定格出力	1.8 kVA
定格電流（並列接続時）	36.0 A
定格出力（並列接続時）	3.6 kVA
過電流保護装置	電子式
直流	
定格電圧	12 V
定格電流	3 A
過電流保護装置	電子式

この仕様諸元は改良のため予告なしに変更することがあります。

*1：エコノミーコントロールスイッチ ON 時

*2：仕様諸元表に表示した騒音値は、エコノミーコントロールスイッチ ON（作動中）時で、LWA は ISO3744 に準ずる試験環境での音響パワーレベル、dB(A)/7 m が機側 7 m、四方向の算術平均値です。異なる環境下での騒音はこの数値と変わる場合があります。

ユーザー情報



本体識別番号ラベル

商品名、本体識別番号（本体識別番号ラベル）などは問い合わせや部品を注文するときのために記入しておいてください。
万一の盗難時のために商品名、本体識別番号は他の資料にも記録しておいてください。

1. 本体識別番号ラベル

商品名

本体識別番号

購入年月日

購入先

電話番号

お客様ご相談窓口のご案内

発電機の整備、修理のご依頼、部品購入について

保証修理につきましては、保証書の内容をよくお読みいただき保証書を添えて、本機をご購入いただきました販売店にご依頼ください。

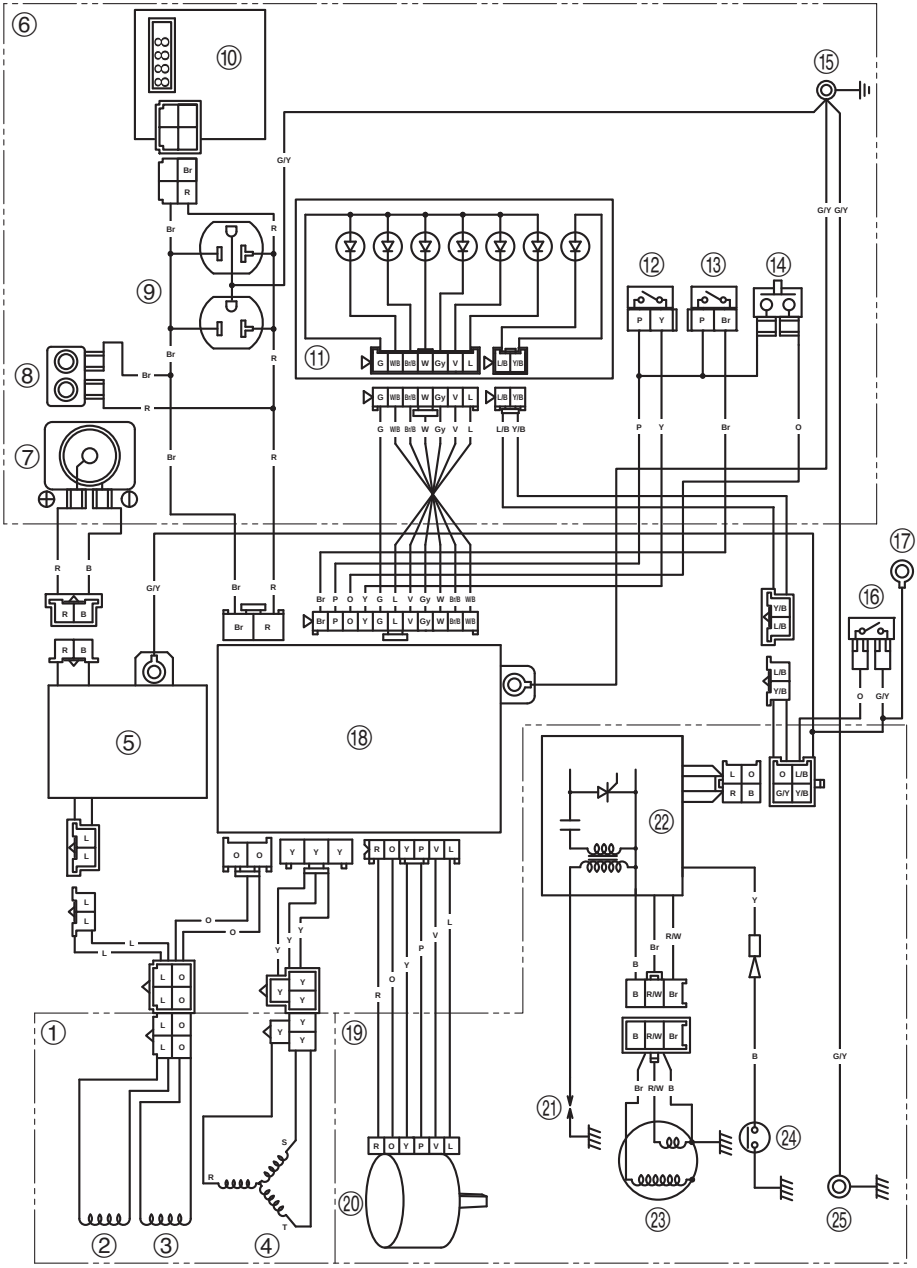
整備・部品の購入・有償修理については、下記 URL リンク先に記載のサービス指定工場もご利用いただけます。
サービス指定店への整備、修理のご依頼は、本機の持ち込みを原則としており、有償となることをご了承願います。

当社発電機に関する各種ご相談は下記までお問い合わせください。

・当社ホームページから
URL　https://willbe-corp.com/support/repair/

・お客様相談窓口から
0120-025-240
営業時間：9時から17時まで
※土曜・日曜日、祝日、当社休業日を除く

結線図


⑥
⑩
⑮
⑨
⑧
⑦
⑪
⑫
⑬
⑭
⑰
⑯
⑤
⑱
⑲
⑳
㉑
㉒
㉓
㉔
㉕
①
②
③
④
G/Y
Br
R
B
L
O
Y
P
V
S
T
R/W
G
WB
B/B
W
Gy
L/B
Y/B

12

1. ジェネレーター
2. DC コイル
3. AC サブコイル
4. AC コイル
5. AC/DC コンバーター
6. コントロールボックス
7. アクセサリーソケット
8. 並列端子（交流用）
9. 交流コンセント
10. 電圧計／アワーメーター
11. 多機能 LED メーター
12. 周波数切替スイッチ
13. エコノミーコントロールスイッチ
14. ブーストモードスイッチ／リセットボタン
15. アース端子
16. エンジンスイッチ
17. 燃料コックアース
18. コントロールユニット
19. エンジン
20. スロットルコントロールモーター
21. スパークプラグ
22. CDI ユニット／イグニッションコイル
23. CDI マグネトウ
24. オイルレベルスイッチ
25. エンジンアース

カラーコード

B	黒
Br	茶
G	緑
Gy	灰
L	青
O	橙
P	桃
R	赤
V	紫
W	白
Y	黄
Br/B	茶／黒
G/Y	緑／黄
L/B	青／黒
R/W	赤／白
W/B	白／黒
Y/B	黄／黒

索引（さくいん）

あ
アース端子 2-6
アクセサリーソケット 2-10
安全のために必ず
守っていただきたいこと 1-1
え
エアクリーナエレメントの清掃 5-8
エコノミーコントロールスイッチ 2-6
エンジンオイルの給油 3-2
エンジンオイルの交換 5-4
エンジンスイッチ 2-5
エンジンの始動 4-1
エンジンの停止 4-3
お
オイル警告ランプ（赤色）..... 2-5
か
各部の取り扱い 2-5
各部の名称 2-1
過負荷警告ランプ（赤色）..... 2-7
き
キャブレタ燃料排出コック 2-11
こ
交流コンセント 2-10
交流電源の取り出しかた 4-4
故障と対策 8-1
し
周波数切替スイッチ 2-9
重要ラベル 1-3
出力インジケーター（緑色）..... 2-7
仕様諸元、EF1800iS 9-1
使用前点検 3-4, 5-1
す
スパークプラグの点検と清掃 5-6
た
短期保管 7-1
ち
長期保管 7-3
直流電源の取り出しかた 4-5
て
定期運転・定期交換 5-3
定期点検 5-1
定期点検表 5-1
電圧計／アワーメーター 2-8
点検のおすすめ 5-1
電源の使用可能範囲 4-6
ね
燃料残量計 2-8
燃料（自動車用レギュラーガソリン）の
給油 3-1
燃料タンクキャップ 2-6
燃料タンクキャップつまみ 2-8
燃料タンクストレーナの清掃 5-10
は
はじめてお使いになる前に 3-1
ふ
ブーストモードスイッチ 2-9
へ
並列端子（交流用）..... 2-10
ほ
本体識別番号ラベル 10-1
ま
マフラーワイヤネットの清掃 5-9
り
リコイルスタータハンドル 2-11
リセットボタン 2-7

当社は、本書に記載の内容を予告なく且つ責務を負うことなく、
変更又は修正する権利を留保します。

株式会社 Willbe
〒496-0023 愛知県津島市鹿伏兎町下子守２３番地
TEL：0567-69-7802　FAX：0567-69-7814
URL：https://willbe-corp.com/

2025.09